

会 議 録

1 会議名

平成30年度第4回保倉区地域協議会

2 議題

【協議事項】

自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

平成30年10月12日（金）午後6時00分から午後7時30分

4 開催場所

上越市立保倉地区公民館

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 宮川和市（会長）、吉川善一（副会長）、池田つえ子、大堀幸子、
中島 厚、早津輝雄、山岸 功、吉田一枝、渡邊良禎（欠席3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【宮川会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：渡邊委員、池田委員に依頼
- 議題【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・本日の進め方について説明

【宮川会長】

それでは、4つのテーマがあるが、どのテーマから取り上げて協議していくかを伺いたい。

【吉川善一委員】

全てが重要だと思っているが、「地域の安全・安心について」から行ったほうが良いのではないかと思っている。

【宮川会長】

・ほかに意見はなく、「地域の安全・安心について」から協議を行っていくことで了解を得る

【滝沢センター長】

地域で解決できる問題については皆さんで話し合いをして解決できればと思っているが、市が行っている事業等については、担当課からも話を聞き、現状がどのようなになっているかを確認しながら進めていければと思っている。

地域協議会は市へ意見書を提出することもできるが、それが目的ではなく、出していた問題点や地域の課題をどのように解決するか協議していただく場なので、市から現状を聞き、その上で地域で解決できることもあるかと思うので、そのようにお願いしたい。

【宮川会長】

市と一緒に一つひとつ積み重ねていき、課題を解決できればと思っている。

【渡邊委員】

「保倉地区内の防犯対策について」内に防犯カメラについて記載されているが、防犯カメラについては住民のプライベート等の問題もあり、住民からの同意がなければ設置ができないという市の見解が記載された新聞の記事を読んだことがある。その動向を我々も見つめる必要があると感じた。

そしてハザードマップについてだが、以前、避難場所や避難体制についての説明会があったが、実情と即さない面がある。そこを保倉区としてどのように考えるのか。先般の豪雨の際、市から高齢者避難準備や避難勧告の放送が繰り返し入っていた。ハザードマップによると私の町内の避難先は保倉小学校の体育館だが、そこまで2キロメートルもの距離がある。それなのに「お年寄りはお早めに避難してください」と言われても実情に合わない。「避難が難しい人は頑丈な建物の2階等へ避難してください」という付帯的

な説明はあったが、保倉区だから一括で保倉小学校へ避難するように言われても難しい。

また、指定された避難場所へ行けばそれなりの対応をしてくれるが、それ以外のところへ行っても対応してくれないという記事を読んだことがある。食料等の物資は決められてところにしか配られない。その辺をもう少し工夫していただきたいと思った。

そして、以前から上越市第6次総合計画が大きな問題だと言っているが、本日（10月12日）、午後6時30分から頸城区で説明会が開催され、明日（10月13日）は市民プラザでも説明会が開催されるとのこと。上越市第6次総合計画の後期計画案について10月に発表すると市長が言っていたが、「まちづくり意見交換会」で様々な問題点が分かったので、それをテーマにパブリックコメントを開催しながら検討していくということが新聞に載っていた。それによると、交通体系について見直すということ、今の公共交通の路線のあり方について、もう少しきめ細やかに考える必要があるということや、少子化に伴う小学校の統廃合を積極的に進めるということが書かれていた。これらについて住民の意見を聴きながら十分に検討していくとのこと。

行政区画を地域横断的に検討していくことを考えた時、大きな問題なので保倉区として、後手に回すわけにはいかない。ただ、地域協議会内で協議しても結論は出ないと思うので、このような問題点があり、解決するためにはどのような方法があるのかということとをこの場で話し合い、予備知識として頭に入れておく必要があると思っている。

頸城区と市民プラザで行った会議内容やパブリックコメントで出た意見については議会を通して市民へ公開するとのことだが、大きな柱が105本くらいあるとのことなので、かなり具体的なものが出てくるのではないかとと思っている。

【宮川会長】

上越市第6次総合計画については、随時公開されると思う。それを踏まえて地域で検討することが出てくるのではないかと。参考にし、進めていきたい。

【池田委員】

今回、各委員が考えている課題を出していただいたが、委員の中には、出された課題について別の考えを持っているかもしれない。そのことについて、意見交換する場を設けていただくことはできないか。

【宮川会長】

確かに池田委員のおっしゃったとおりである。進め方として良いアイデアはないか。

【早津委員】

確かに、この場で4つのテーマについて議論していくことは大事だと思っている。意見書等を出したとしても行政と対立するのではないかと感じており、うまくいかないのではないか。そうなるとう議論しても空回りになってしまう恐れがある。

例えば、町内で会議等があれば、住民の大体の方々が参加すると思うが、それに合わせて地域協議会委員も出席し、現在の課題や先を見据えた課題に対して率直な意見を聴いてはどうか。そういう計画を立ててみてはどうかと思っている。

【宮川会長】

委員の皆さんに出していただいた課題は町内会長協議会等へは伝えていない。我々だけで協議している。町内会長協議会へ投げ掛けて意見を聴くのも一つの方法だと思っており、ほかにも意見があれば出していただければと思っている。それを踏まえて話を進めるのも良いのかもしれない。

【渡邊委員】

私も以前から、この場で協議をしているだけではどうしようもないと思っていた。皆さんから出していただいた課題を地域住民へ知らせるための手段を考えないといけない。確かに、町内等で会議がある際に意見集約を行うのは一つのアイデアであり、良いと思うが、私の町内では会議を年に2回ほどしか実施しないので、町内会長に聴いても何も出てこないかもしれない。

私たちが考えていることに対して地域の皆さんはどう思っているか、文書で町内会へ問いかけたほうが良いのではないかと。関心がない人もいると思うが、中には関心がある人もいます。関心がある人は課題を抱えていても、どこへどのように投げ掛ければ良いのかが分からないかもしれない。

地域協議会で話し合っていることを周知にし、地域の皆さんの意見を聴いたほうが良いのではないかと。

【吉川副会長】

この場で話しているだけでは進まないで、町内会長協議会等と一緒に私たちが出した課題も含め、話し合っていたほうが良いのではないかと。

【山岸委員】

私もそう思う。保倉区全体を考えている町内会長協議会と一緒に考えるのが一番ではないかと。

【吉田委員】

私たちが出した意見だけではまとまりがなく、問題が広がってしまっている。町内会長たちは私たちが考えている以上に町内の問題を把握していると思う。

私も町内会長の方々から意見を聴く場を設けていただきたいと思っている。

【宮川会長】

我々だけで保倉区のことを考えることは難しいので、町内会長協議会の役員との話し合いの場を持ち、地域協議会で話し合っている内容を伝えるというのはいかがでしょうか。

【中島委員】

町内会長協議会との話し合いの場は総論ではなく、各論をしっかりと課題を絞り込んで会議に臨んだほうが良いと思っている。例えば、保倉小学校の統合問題や上越市第6次総合計画内にバス路線の変更等があったので、現在通っている以外の場所でも走行してくれるのか、走行してくれるのならどこを通ったら子ども達が登下校しやすいのかとか、小さなところから話を詰めていったほうが良いのではないかと。

【渡邊委員】

中島委員の言う通りだと思っている。漠然と意見を聴いても何も出てこないのではないかと。保倉小学校についてだが、存続してくれれば一番良いが、現状を考えると難しくなっている。保倉小学校のあり方をどのようにしていくかを協議会内で話し合い、いくつかのパターンに絞ってから町内会長協議会へ示したほうが良いのではないかと。そのような方向で進めていかないと話はまとまらない。

【大堀委員】

先ほど池田委員が資料に書かれている課題について、ほかの委員はどう思っているかを聞いてみたいと言っていたが、私もそう思っている。

保倉区地域協議会委員は女性が3人いる。男性委員は以前、町内会長や地域の団体の会長をやられていた人が多いため、経験上、私たち3人が思っている疑問に対して答えを持っているかもしれない。

自主的審議事項として提案させてもらった文言は、ふとした疑問を書かせてもらった。委員同士で「私は、その疑問に対してこう思う」というような話し合いを進めていければ、地域協議会内で解決できる課題もあるかもしれない。委員同士が知識を持つことにより、地域協議会も活性化するのではないかと。そうすれば、町内会長協議会の方々との話し合いの場を持つにしても中島委員が言ったような的を絞った話し合いをすることができるのではないかと。

自分の中で納得してから前に進みたいと思っている。

【宮川会長】

事務局へ確認だが、他区ではどのように自主的審議事項を進めているのか。

【滝沢センター長】

他区では、身近な課題を解決しようということで自主的審議事項として取り上げ、協議を進めている。

八千浦区では「海岸線のごみ問題」を協議しており、直江津区では「直江津まちづくり構想」という大きなテーマを掲げており、進め方について協議しているところである。谷浜・桑取区では「子育て支援」を自主的審議事項として掲げているが、すぐに解決できるような課題ではないが、若い子育て世代の方々から来ていただき意見交換を行った。

他区では自主的審議事項として委員の皆さんと協議していきたいということがあれば提案していただき、自主的審議事項として取り扱っていくものは担当課の意見を聞いたり、該当する団体と意見交換をしたりする。

すぐに解決はしないかもしれないが、地域協議会の皆さんを中心に話し合っていくことが大切だと思っている。

本日「地域の安全・安心について」から話し合っていくと決めていただいたが、先ほど大堀委員や池田委員がおっしゃったように、話し合いを行う前段として出していた意見について、ほかの委員の方々はどう思うかということ話し合ってくださいことも一つの案である。

町内会長協議会の役員の中から何人か来ていただき、少人数で話し合いの場を持つことも可能であるし、地域の女性の方々だけを呼んで女性からの目線で意見を聴くことも可能である。

渡邊委員が言うように地域協議会だよりで意見を募集するというのも一つの案である。

1回で終わる話ではないと思うので、皆さんのやり易いやり方で出していただいた課題について掘り下げていただければと思っている。

小学校の統廃合の問題については、板倉区で地域協議会が議論を進めてきた。委員がPTAから意見を聴いたり、地元の意見を聴いたりして地域協議会として統合をしたほうが良いのではないかと結論に至り、市へ意見書を提出した。

【吉川副会長】

板倉区や三和区、浦川原区には保育園が1つしかない。小学校は学区が決められているため、卒園後に分かれてしまう。なので、小学校が統合することに抵抗はなかったと思っている。だが、保倉区の場合は違ってくるので、少し問題が出てくるのではないかとと思っている。まだ80名ほどはいるので今の段階で地域協議会から意見を言うのは違うのではないかとと思っている。

【渡邊委員】

保倉小学校が続いてくれることが一番である。まず、複式学級がある学校から統廃合していくということが本日（10月12日）の新聞に出ていたが、複式学級ができるまで統合するのを待つのかということ、その時に統合してくれる小学校があるか分からない。有田小学校が開校したが、これからも児童数は増えていき保倉小学校と統合できるか分からない。保倉区としてどのようなやり方があるかを考えると頸城区には小学校が3校あるが、もし3校が統合するなら保倉小学校も一緒になるかもしれないし、交通の便を考えると難しいかもしれない。そうすると青野のほうは三和区や頸城区と統合し、五貫野のほうは有田小学校と統合するかもしれず、保倉区は分裂することになる。これは大きな問題ではないか。

先走って協議することはあまり良くないことかもしれないが、我々の立場として、どんな方法があるのかを話し合っても良いのではないか。

【大堀委員】

私もそう思っている。地域内の課題に対し、各委員としてどのような考えを持っているのか話し合い、委員同士で共通認識を持ち、各団体の役員の方々と話し合いの場を持つというのはどうか。

【宮川会長】

頸城区の望ヶ丘の団地には小学生が20人から30人程いる。保倉川を渡って頸城区の小学校へ行くよりは保倉小学校に通ったほうが安全かもしれない。このような意見も我々の意見として伝えても良いのかもしれない。

【山岸委員】

やはり町内のことは町内会長が一番分かっていると思うので、勉強するためにも町内会長協議会との話し合いの場を設けたほうが良いのではないか。

【滝沢センター長】

事務局の考えとしては、やはり、出していただいた課題について皆さんがどう思って

いるかということをお話し合っていてから町内会長協議会等との話し合いに臨んだほうが良いのではないかと考えている。

次回以降、出していただいた提案内容について皆さんで1件ずつ共通認識を持っていただく場を設けたらどうか。

【大堀委員】

協議会の場で結論を出すのは難しい。皆さんでいろいろな意見を出し合っていて進めていければいいのではないかと考えている。まずは、皆さんが考えていることをお聴きしたい。

【池田委員】

公の会議では、あまり本音で話すことができないかもしれないが、皆さんと一緒にいろいろなことを話すのは良いことだと思っている。

【早津委員】

市の人口も減ってきており市税も年々減ってきている。保倉区で考えると地域活動支援事業費補助金を毎年配分されているが、それを地域のためにどう活かすか検討したい。採択を通じて地域振興の一躍を担っていることが第一である。

仮に来年度以降、地域協議会がなくなったら我々がこの場で話し合うことはなくなるかもしれないが、保倉地区振興協議会や町内会長協議会、PTAの皆さんで話し合いを行っていくと思うので引き続き協議をしていけると考えている。だが、そう考えると年度末までに町内会長の皆さんとの話し合いの場を設けていただきたい。結論は出さなくても良いと思うが地域と連動していかなくてはならない。そして、提案していただいた委員の皆さんの内容について、委員全員で話し合うことから始めたほうが良いと考えている。

【宮川会長】

それでは、次回以降、4つにまとめていただいたテーマ毎に皆さんから意見を聴きたいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【滝沢センター長】

次回の協議会は11月上旬を考えている。

【宮川会長】

— 日程調整 —

・次回協議会：11月5日（月）午後6時から

【吉川副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。